

おぐらぜき 小倉堰って どんな堰？



固定堰

スライドゲート

魚道

護床工



位置図

小倉堰のあらまし

栃木市北部の西方町に位置する小倉堰は、約400年前に一級河川思川に築造された取水堰です。小倉堰から取水した水は、西方地区の農業用水などに使われており、江戸中期には、「西方五千石」と呼ばれた米どころ西方町の農業を支えてきました。

昭和26(1951)年に造成工事が始まり、昭和28年(1953)年に現在につながる姿になりました。築造後約60年が経過した平成22(2010)年の調査で、護床ブロックの劣化やゲートからの漏水などが確認されたことにより、治水の安全性の確保と長寿命化を図るための改修を行い、令和3(2021)年度に完了しました。

改修前の小倉堰



改修後の小倉堰



工事前後の様子

▼改修前の沈下した護床ブロック



▼改修前のスライドゲート



▼改修後のきれいに並べられた護床ブロック



▼改修後のスライドゲート



護床工

河床の洗掘（水の流れにより土砂が削られ流されること）を防止するための施設です。

◀漏水の様子

スライドゲートの役割（土砂吐）
堆積した土砂を素早く取り除き、水路に土砂が流れ込むのを防ぐ機能があります。

